

陳 情 書

昭和46年、尾鷲市一帯は1000mmから1200mmに及ぶ集中豪雨に襲われ、26名の死者をはじめ約44億円にのぼる被害を蒙りました。

被害は、各地での山津波と河川の氾濫によるもので、そのため家屋や道路の損壊が続出し、被災地は日常生活と生産活動に重大な打撃を受けております。加えて、被災地の山肌はいまなお至るところに山津波の爪跡が残され、現地は災害の再発におののき復旧の目途も立たぬ有様であります。

つきましては、何卒この惨状をお汲みとりの上、現地が一日も早く復旧でき再びこのような災害を招かないよう激甚地指定に格別の御配慮を賜りたく伏して陳情申し上げます。

昭和46年9月25日

殿

三重県尾鷲市長 岩 城 悌

尾鷲市議会議長 長 野 勝 明

総務課

被害のあらまし

死亡26名、被害総額約44億円

山津波再発の危険も深刻

集落の被害

最も甚大な被災地は、死者13名づつを出した賀田、古江の両地区で、激しい山津波が各所でおこり、ことに賀田では背後の山のほとんどの谷が引きさかれ、再び大雨になどなればもう逃げ場所もない有様です。しかも河川の氾濫は著しく、部落の中心を流れる川は川床が五米も埋まり道路より川の方が高くなって濁流が部落に氾濫する始末でした。

古江、賀田に続いて、三木里、大曾根などの被害も大きくかなりの家屋が浸水に見舞われました。

交通通信施設の被害

道路、鉄道通信網は随所で破壊され、三木里、九鬼、古江、賀田の各部落は一時完全な孤立状態におち入りました。その後、鉄道、通信と一部道路は災害翌日に復旧しましたが、国道311号線の尾鷲、九鬼間は被害が大きく復旧の見込みがたたないままになっています。

教育関係の被害

教育施設の被害も大きく、とくに賀田小学校は一部土砂で埋まり、古江小学校とともに災害再発の不安を残しています。

産業関係の被害

産業面では、林業、農業が農林道を各地で破壊された痛手が深く、水産業においては、はまちの養殖が汚水で多くの損失をうけました。そのほか商工業の浸水による被害もかなりにのぼっています。

保健、衛生関係

山津波と洪水で、水道、シ尿関係の施設など、広範囲に破壊されたほか、汚水の氾濫で防疫活動がつづけられています。

ま と め

今回の災害は、集中豪雨による山津波と河川の氾濫が特色で、その復旧だけで10億円が見込まれ、被害総額は43億5千万円に達しております。

被害一覽表 (昭和46年9月18日現在)

1) 人的被害

区 分		人 員	摘 要
合 計		56	
死 者		26	古江13人 賀田13人
負 傷	重 傷	18	
	軽 傷	12	
	小 計	30	

2) 被災世帯と人員

区 分		世 帯 数	人 員	摘 要
合 計		765	2,364	
全 壊	流 失	37	115	床上以上被害世帯数 (三木地区 83 古江地区 16 賀田地区 161 そ の 他 39)
半 壊	壊	21	62	
床 上	浸 水	241	805	
床 下	浸 水	445	1,448	

3) 家屋の被害

区 分		棟 数	摘 要
合 計		744	
全 壊	流 失	42	内非住家5棟
半 壊	壊	24	〃 〃 3
床 上	浸 水	259	〃 〃 18
床 下	浸 水	459	〃 〃 14

4) 被害総額

単位：千円

区分		単位	被害数	被害額	摘要
合計				4,351,389	
住家				270,360	
土木施設	砂防		10	458,500	{ 市 4,400 千円 県 1,224,350 千円
	道路		109	1,228,750	
	河川		34	548,205	{ 市 322,905 千円 県 225,300 千円
	橋梁		3	7,000	
	小計		156	2,242,455	
都市施設	公園事業			2,500	
	堆積土砂排土			15,000	
	小計			175,000	
農業関係	水稲	ha	15	5,579	
	蔬菜	ha	2	1,882	
	柑橘	t	57.6	22,781	
	農地	ha	8.75	67,700	
	農業用施設	ヶ所	41	273,105	
	有線施設等			14,248	
	小計			385,295	
林業関係	林道	ヶ所	31	13,360	
	山地崩壊	ヶ所	121	1,046,000	
	林産物	ha	575.43	63,940	
	小計			1,123,300	
水産関係	養殖関係			119,588	
	漁具		1	4,500	
	給油施設			157	
	小計			124,245	

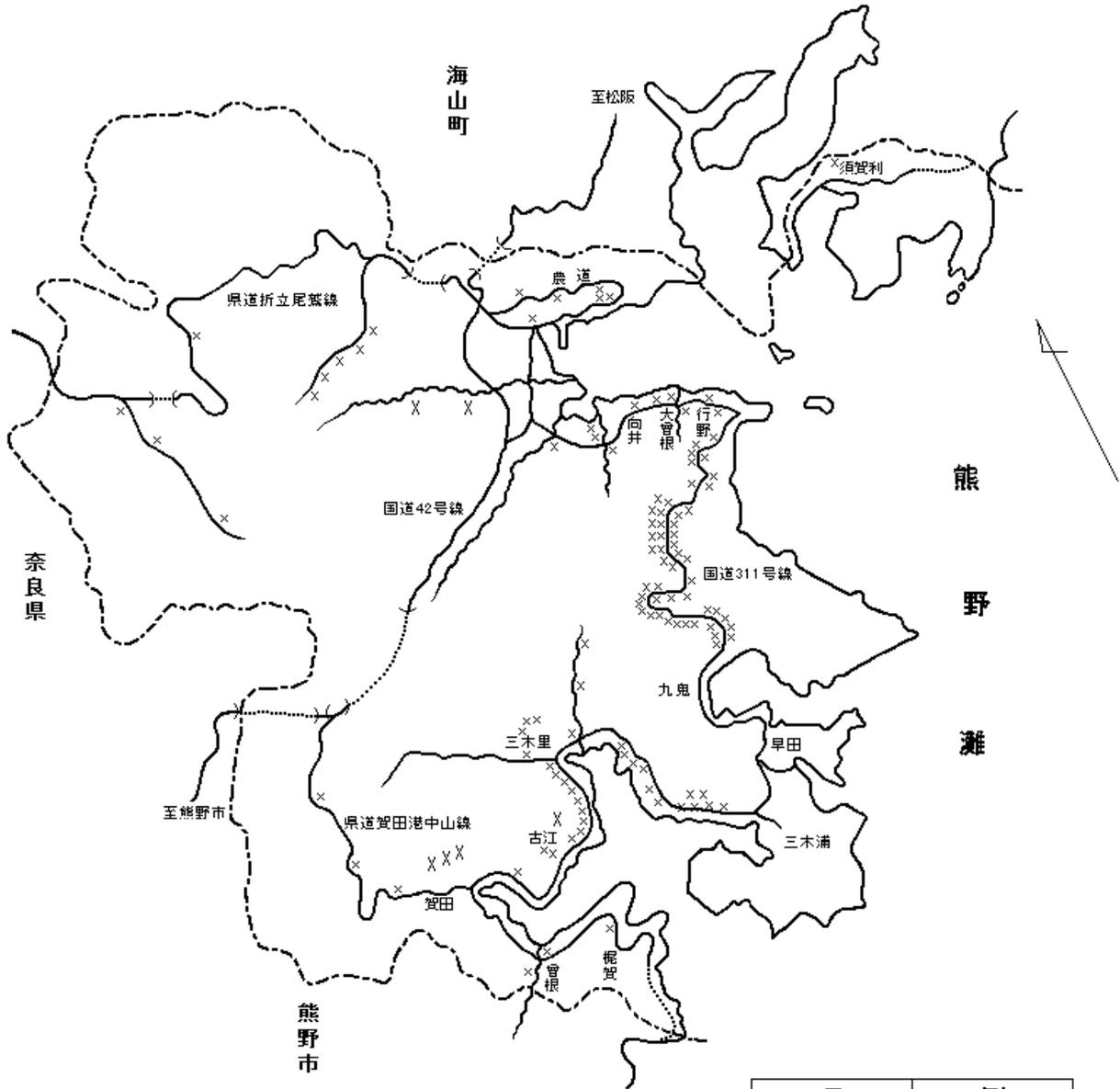
単位：千円

区 分	単 位	被 害 数	被 害 額	摘 要	
畜産関係	畜 舎	ヶ所	2	400	
	豚 頭		14	42	
	鶏 羽		250	175	
	小 計			617	
教育関係	中 学 校		5	2,470	
	小 学 校		13	71,242	
	幼 稚 園		2	150	
	公 民 館		7	185	
	青 年 の 家		2	250	
	幼 児 学 級		1	8,350	
	小 計			82,647	
商工関係	工 業 建 物	ヶ所	3	9,450	
	設 備 機 械	ヶ所	14	10,850	
	製 品 ・ 半 製 品	ヶ所	5	400	
	店 舗		51	72,050	
	そ の 他 館		1	500	
	小 計			93,250	
観光関係	市 営 施 設		1	800	ユースホステル
	釣 堀		1	400	
	竹 林			20	
	小 計			1,220	
衛生関係	簡 易 水 道		5	1,000	
	屠 場		1	50	
	小 計			10,050	

災害経過

- 9月10日 14時25分 大雨注意報（16時20分三重県南部に大雨警報）
- 15時35分 賀田局電話不通
- 15時50分 緊急課長会議招集
- 16時0分 尾鷲市災害対策本部設置
- 16時20分 警察無線連絡で古江地区で12～13名生理の報入る
- 16時25分 九鬼局電話不通
- 16時50分 警察無線で救援隊派遣の要請入報、直ちに消防車で救援隊派遣するも古江までゆけず賀田にとどまる。
- 19時0分 自衛隊派遣要請 市内交通、各地で不能におち入る。
- 21時0分 賀田、古江、名柄地区の被害状況は入る。
- 21時30分 巡視船もがみにて医師と救援隊派遣 消防団非常呼集
- 22時30分 市内各河川警戒水位突破
- 22時50分 賀田羽根地区の山崩れ連絡（アマ無線）
- 23時0分 災害救助法発令
- 23時5分 自衛隊先発隊尾鷲到着
- 23時30分 市内北川流域で床下浸水
- 9月11日 0時0分 賀田地内濁流にのまれたとの入報（アマ無線）
- 0時50分 賀田地内雨やむ
- 2時50分 巡視船もがみ、賀田で負傷者収容
- 3時30分 アマ無線で食糧輸送の要請あり
- 4時0分 自衛隊本部25名到着
- 7時0分 自衛隊主力到着
- 8時10分 自衛隊ヘリコプター賀田で負傷者救出 被災地の全ぼう判る以後、関係機関が全力をあげて救援活動に入る。
- 9月11日 三重県知事と県会議長現地に入る
防衛庁政務次官野呂恭一議員現地視察
- 13日 建設政務次官藤尾正行議員視察
市会議激甚地指定を求める決議をおこなう
- 14日 県議会、土木、農林常任委員一行視察
- 16日 加藤進参議視察
- 17日 行方不明者最後の遺体確認
- 19日 建設省河川局長一行視察
- 20日 県議会災害特別委員一行視察
衆参両院災害特別委員会視察

市内の主要被害図



凡	例
災害地	×
道路	———
河川	~~~~~
市町村界	- - - - -

——集中豪雨の記録——

降雨量は年間の1/4

三重県南部地方は、全国でも有数の多雨地帯で、平均年間雨量は約 4000 mmにも及んでいるが、今回の豪雨はわずか3日足らずでその4分の1にあたる1095mmをたたきつけるという凄まじい物であった。

しかも災害時の一週間前から雨天がつづいたことも山津波を引き起こす悪条件のひとつであった。

なお、三木里附近の観測では同期間に1200mmを記録している。

3日間の各地降雨量

市 町 名	観 測 点	8・9・10日の雨量	観 測 所
尾 鷲	尾 鷲	1,095	気象官署
	三 木 里	1,206	県土木事務所
熊 野	木 本	632	甲、丙種観測所
紀伊長島	長 島	992	”
津	津	48	気象官署

1日の降雨量は全国第2位

mm

第1位	尾 鷲	806.0	1968.9.26
2位	”	733.5	今 回
3位	”	597.5	1945.6.7
4位	彦 根	596.9	1896.9.7
5位	宮 崎	587.2	1939.10.16
6位	屋久島	557.3	1942.8.27
7位	名 瀬	547.1	1903.5.29
8位	秩 父	519.7	1947.9.15
9位	中宮祠	519.2	1948.9.16
10位	熊 本	480.5	1957.7.25

災害勃発1週間前の雨量

日 付	雨 量
9月2日	13.0 mm
3日	20.5
4日	1.0
5日	0.0
6日	0.5
7日	9.5
8日	0.5
9日	314.5
10日	733.5
11日	47.0

参 考	東 京	393.0	} いづれも最大記録
	大 阪	251.0	
	名古屋	240.0	

尾鷲測候所

災害再発の不安

古江地区も賀田地区も、またその他の傾斜地にあることごとくの部落の人びとは、その背後にある山肌の生々しい傷跡を見上げて、一粒の雨にも家財をまとめて避難する生活をつづけています。

ことに賀田地区や古江の被災地で取り残された住家に住まう人達は、安全な避難場所にもこと欠く状態で、復旧に立ち上る意欲もそがれています。

古江・賀田の被災地区図

